

おくすり見える化シートの作成事業(R5)

《目的》

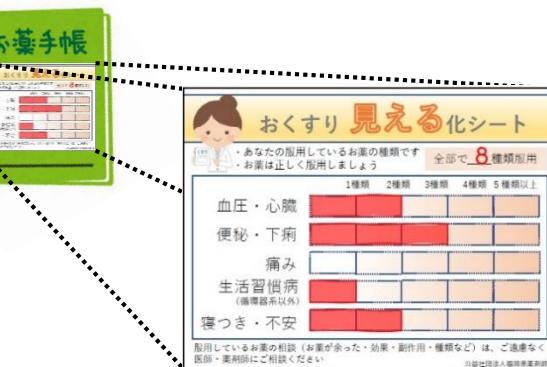
- お薬手帳は、文字による個別の医薬品情報の提供となるため、患者目線では、その都度のお薬情報を把握することは容易であるが、全体のお薬情報を把握することが難しい。そこで、患者の服薬情報について、薬効毎に何種類あるかを可視化するシート「おくすり見える化シート」を(公社)福岡県薬剤師会に委託し作成。これを薬局における服薬指導に活用する。

《対象》

- 患者背景:定期的に来局する65歳以上、定期内服薬6剤以上服用中、複数回来局の患者
- 協力薬局:県内4ブロック各20薬局の合計80薬局(薬局毎に患者10人)

《方法》

- 県薬剤師会にて「おくすり見える化シート」を作成(シール)、協力薬局に配布
- 各薬局で次のフローに従い患者ヒアリング等実施、処方適正化(減薬)へのアプローチを実施

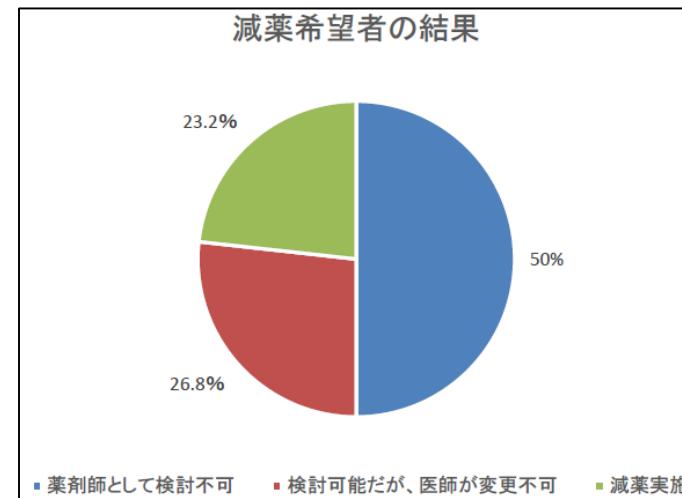
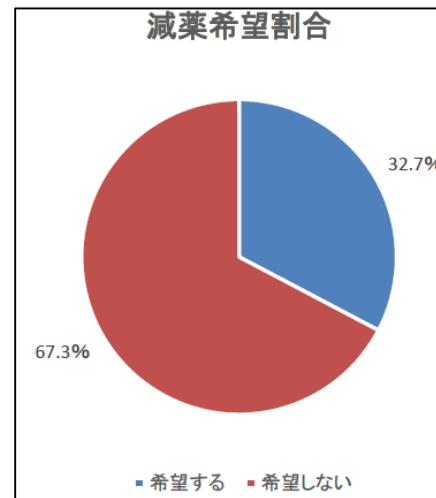


- ①お薬手帳の表紙等に「おくすり見える化シート」を貼付、患者ヒアリングを実施、ポリファーマシーのチラシで説明
- ②患者の再来局時、処方適正化(減薬)の希望有無のヒアリングを実施(患者希望なければこの時点で終了)
- ③減薬の検討可能※であれば追加ヒアリング、医師に情報提供・提案
※薬剤師の判断で減薬不可の場合、医師に情報提供を行い終了
- ④連携のもと処方適正化(減薬)に向けて対応

おくすり見える化シートの作成事業(R5)

《結果》

- 男性40%、女性60%。内75歳以上約75%の協力が得られており、平均服用薬剤数9.17剤。
- 有効データ697例中228例(32.7%)が減薬を希望し、内訳は以下のとおり。
「薬剤師として検討不可」114例(50.0%)、
「薬剤師として検討可能と判断したが、医師が不可と判断」が61例(26.8%)、
「薬剤師として検討可能と判断し医師も可能と判断し減薬実施」が53例(23.2%)、
全回答者の7.6%の減薬との結果が得られた。また減薬できた薬剤数は平均1.26剤。



《まとめ》

- 実施期間が短期間(R5.11.13～R6.1.31)だったものの、ヒアリングの結果から、患者自身が服用する薬剤について、より積極的に関わろうとする行動変容に繋がったと考えられる。
- 患者発信を端緒とするポリファーマシー解消に効果が期待できると考えられる。

おくすり見える化シートの検証事業(R6)

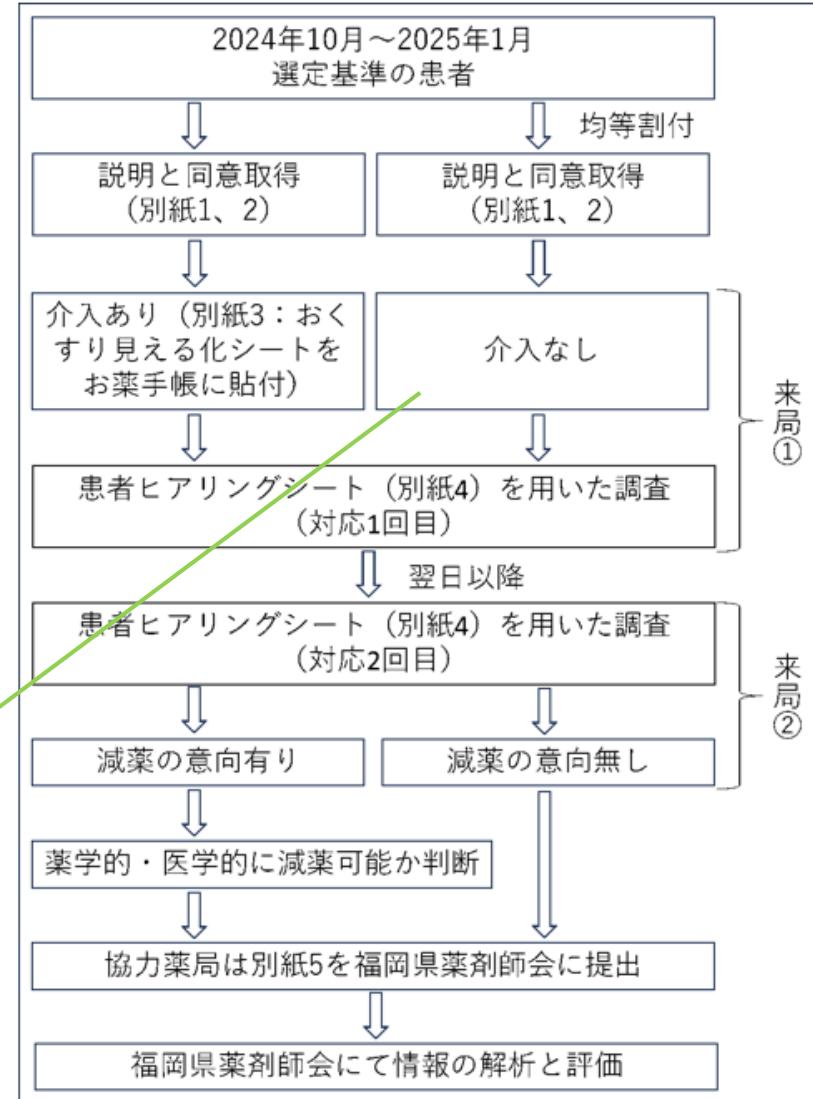
《目的》

- おくすり見える化シートが患者の減薬意向に対する影響を明らかにすることを目的として臨床研究を実施。令和5年度と比較し、薬局での実質的な実施期間がより長期になるよう実施。

《対象》

- 患者背景:定期内服薬6剤以上服用中、複数回来局の患者、本研究に同意が得られた患者
- 協力薬局:県内4地域(北九州、福岡、筑後、筑豊)から各地域20薬局、合計80薬局程度、追跡する患者数1薬局あたり10人、合計800人程度を想定(令和5年度と同規模、同一薬局又は新規協力薬局)。
- 効果がより確認しやすいよう、非介入群(おくすり見える化シートを使用しない群)を設定し、患者ヒアリング等を通じ服薬の適正化(減薬等)に繋がったかを測定する。

《方法》



おくすり見える化シートの検証事業(R6)

《結果》

- 患者から同意書による同意を取得できた薬局は計73薬局(介入群:34薬局、非介入群:39薬局)
- 患者数は計482人(介入群:247人、非介入群:235人)
- 減薬希望後の減薬に至った割合は、非介入群と有意差なし。
- 減薬の意向は、介入群が有意に高い。
- 「何の薬か理解している」との問い合わせへの回答が良好に変化した割合は、介入群が有意に高い。
- 鎮痛薬や消化器用剤(胃腸薬・便秘・下痢等)において、比較的多く減薬実施されていた。

《目的》

おくすり見える化シートの利用方法を会員薬局に広く周知し、患者への服薬指導に活用。
ポリファーマシー解消につながった好事例等を収集する。

《方法》

- R5、R6年度事業を振り返り、おくすり見える化シートの改善点について事業参加薬局等から意見募集。
- 意見を踏まえ頒布版のおくすり見える化シートを作成し、会員薬局に配布。
- おくすり見える化シートの利活用方法について、動画等で会員薬局に案内。
- おくすり見える化シートを活用した服薬指導等により、患者のポリファーマシーが解消した事例等(好事例)を収集し、好事例集を作成。

⇒会員薬局における、おくすり見える化シートを活用した服薬指導の普及につなげる

		令和7年度(2025年度)			
		4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
協議会			● 第1回		● 第2回
おくすり見える化シートの周知事業			● 頒布版・周知動画作成	● 周知実施	● 好事例集作成
ポリファーマシー研修会 (多職種向け)				●	
電子処方箋導入促進 補助金事業		● 申請受付			1/30 まで
啓発事業				● 啓発 「薬と健康 の週間」	